

不整脈

ベッドサイド診断から非薬物治療まで



著：大江 透

B5 頁 536 2007 年
定価 8,925 円(本体 8,500 円+税 5%)
[ISBN 978-4-260-00208-0]医学書院刊

この度、医学書院から、大江透教授(岡山大学大学院・循環器内科)の手による『不整脈——ベッドサイド診断から非薬物治療まで』が上梓された。

氏は医学部卒業後米国での臨床研修トレーニングを受けられ、帰国後は国立循環器病センターの循環器部門の創設に加わられた。同センターでは、不整脈領域の診断と治療に専念されるとともに、不整脈専門医をめざす若い医師の育成に当たられてきた。その後、岡山大学循環器内科の第2代目の教授として赴任された。

大江教授は、国立循環器病センター赴任当初から日本における心臓臨床電気生理検査の確立に多大な貢献をされ、また温厚な推進者の一人であった。その臨床での成果は Circulation などに発表してこられ、氏は国際的にも評価されている。

岡山大学に赴任後は、医学生や若い医局員に不整脈をどうやさしく教えるかに腐心されていたと聞く。それが結実したものが本書である。本書の特長はいくつかあげられる。それは序にあるように、一人で一貫性をもって書かれたことがある。その結果、不整脈そのものを教えるのではなく、不整脈を有する患者さんについて、心電図で得ら

れた所見(不整脈)の考え方について、そして不整脈の解決のための電気生理検査への考え方について、これらを包み込むように著わされていると思われる。

構成を工夫されつつも、一般的な不整脈の基礎、不整脈の症状と身体所見、検査および治療に続いて、代表的な不整脈をとりあげ、再度その特長から治療までを解説されている。

通常の教科書は、不整脈の詳細は記述で済まされることが多いが、本書は不整脈の歴史とともに、患者さんを総合的あるいは全人的に捉えたいとの意図があるように思える。

本書は著者の構成された順序で読み進んでもよいし、また個々の不整脈から読み出して、随時不整脈の基礎や検査法に戻ってもよい、読みやすい書になっている。図も臨床的に重要かつ必須なのが提示されているが、これらはこれまでの著者の長い臨床経験で得た自前のものであり、図の解説も根拠に基づいているので説得力がある。心電図や電気生理検査所見の図をみて、著者の意図する所を推理するという読み方も、自己の実力がどのレベルかを判断するのによい材料になる。本書でもそのような読み方をぜひ推奨したい。

重症不整脈や重症心不全では、植え込み型除細動器(ICD)や再同期療法(CRT)をどう用いるかのガイドラインについて、わが国ではまだ未完的な面がある。このような新しい治療法に対しても、現状が十分に紹介されている。

著者が意図されたように、医学生、不整脈専門医をめざす初心者および不整脈非専門医の医師以外に、われわれ不整脈専門医にとってもいつでも開けば参考になる好著である。